



NOV 2006 No.58

(事務局) (財)いも類振興会内
〒107-0052
東京都港区赤坂 6-10-41 ヴィップ赤坂 303 号室
TEL 03-3588-1040 FAX 03-3588-1225
<http://www.jrt.gr.jp>

アイダホ旅行記 - The Sixth World Potato Congress -

第6回世界ジャガイモ会議

(有)菊水堂 岩井 菊之

私は、米国ポテト協会の招きでアイダホの Idaho Falls に 2002 年 10 月に一度訪れています。この度は、首都 Boise (ボイジー) で会議が行われるということで、息子(中3)と共に参加いたしました。事前に、米国に行ったら「草履のような大きなステーキが食べられる」とか「ハンバーグが食べ放題だ」と言い、そんなことを夢見ながら、内心は、田舎町に行って飽きてしまわないかと心配しながら、親子二人の旅に出発しました。

8/21(月)

アイダホの首都 Boise に、同じ飛行機で日本人十数名、同じホテルに私たちを含めて 10 名が到着しました。

事前に天気予報を調べたところ、日中は 30 度以上ということで、かなり暑い印象でいたが、飛行場に着き外に出ると、日差しは強く、肌を刺すような感じでした。空気は乾燥していて、砂漠地帯に来たような印象も強く、東京の高湿度とは暑さの感じが全く異なっていました。

空港から、30 分程で、ホテルに到着し、皆で、明日開会される会場まで下見に行きながら、夕食はどこへ行こうかと物色しながら小さな町を徒歩でさまよいました。アメリカ料理と思いきや、大変繁盛している中華料理店に決まり、アメリカ風中華料理を堪能しました。お米は、息子の苦手な長粒米で、チャーハンなどご飯ものは、手をつけませんでした。

8/22(火)

私は、会社の夏休みと土日を返上して内勤していたためか、会議の開会式は、寝過ごして参加できませんでした。インディアンの踊りなどセレモニーがあったそうで、大変残念です。遅れて、会議の受付を行い、昼食の時間となりました。

昼食には、皿一杯のサラダ、豚のソテーに、赤皮のじゃがいもが 2 個半割の状態でもえました。デザートは、チーズケーキにチョコレートシロップとメープルシロップがマーブル状にかかり、大変アメリカ的に甘いものでした。私たちは、完食しましたが、日本人男性は苦手なようです。

昼食時間の合間には、主催者やスポンサーのスピーチが続き、子守歌のような状態でした。会議場を後にし、ホテルで私はまたベッドイン、息子は一人、元気にしていました。

夕食の時間に目を覚まし、ホテルのレストランで、私はバーベキュー味の骨付き肉を、息子はやっと本場の小振りなステーキを食べました。皿一杯のサラダとマッシュポテトが出ましたが、ポテトは赤皮のじゃがいもで、皮も一緒に入っています。現地の方は、皮が入っていることは気にしないようです。

8/23(水)

この日は、昼間は会議には参加せず、Twin Falls の町に行きました。

車で往復 6 時間くらいの移動時間がありました。高速道路を移動するのですが、景色は、乾燥した砂漠のような景色ばかりです。草むらは、一部山火事で焼け、緑色の畑と思われるものは、ほとんどが牧草でした。Twin Falls に近くなると、トウモロコシの畑がありましたが、一生懸命捜しましたが、じゃがいもの畑と思われるのは、一枚だけでした。遠くにじゃがいもを載せたと思われるトラックを一台見かけました。

Snake River を越える橋を渡り Twin Falls の町に入りました。この橋のたもとに、Visitor's Center があり、地図やお土産などの販売をしており、道も丁寧に教えてもらうことができました。Center のすぐ脇に Snake River が流れ、ここからの景色は、Grand Canyon (行ったことはないですが) に行ったかと思われる谷深い岩の渓谷でした。大変美しい景色でしたが、写真を撮ろうとすると、ゴルフ場が川の中州のような場所にあり、何とも言えない気分でした。

この町で一番美しいと言われる Shoshone Falls に行きました。到着したときは、滝の水しぶきで虹が架かり、大変美しい景色でした。夏場は、水量が少ないということでしたが、それほどでもなく、勢いよく流れる滝に感激しました。その後、町の由来となりました Twin Falls に行きましたが、二つあった滝は、灌漑用に一方を堰き止め、古き良き景色はなくなっていました。



ここに、こんな看板がありました。

「Before there were potatoes, there was GOLD」

1860年から1870年代は、ゴールドラッシュに沸き、Snake River の水を消防車のホースのように使い、岩を砕き、金を採掘していたと絵付きで解説が書かれていました。アイダホで積極的に灌漑を使った農法の起源は、ここにあったのかと改めて感じさせられました。



Twin Falls から夕方、会場に戻り、夕食のみに参加しました。サラダは、山盛り、ステーキ(厚さは3CM程あるけど日本人サイズでした)、サーモン、

赤皮のマッシュポテトと盛りだくさんに出てきました。感激はデザートでした。デザートは、皿の上にチョコレートシロップが敷かれ、アイスクリームをラセットバーバンクの形にして、ココアでじゃがいもの皮のように色付けされ、上にホイップクリームが、「じゃがバター」のように載っていました。アイスクリームは、あっさりタイプで、しっかり写真を撮ってから、美味しくいただきました。



8/24(木)

この日は、Boise から1時間ほど山道を登り Idaho City に行きました。西部劇に出てきそうな町並みで、ここにもゴールドラッシュの頃に使われた金を取るためのホース金具や岩を砕く機械など町のいたるところに、置かれていました。



お土産屋さんの店主が西部劇のように空砲で、ライフルと拳銃で撃ち合いを見せてくれました。空砲とはいえ、身近で聞く音に感激でした。店内では、本物の拳銃の弾が200円くらいで売っていて、息子は、しきりに土産に買いたいと言い張っていました。

昼食は、ソフトクリームとアメリカらしいハンバーガーを食べ、フレンチフライをほおばりました(私は、昼抜き)。

山を下り、首都 Boise の町が一望できるテーブルロック山に登りました。

Boise は、川に沿って町ができ、川の近くだけ緑が多く、木がたくさんありましたが、町と反対の山側を見ると、茶色に枯れた草に覆われた乾燥した砂漠のような土地でした。

8/25(金)

Boise の町から約1時間の Wilder で農場展示場(FARM SHOW)が行われていました。朝から張り切って、現地に着くやいなや、じゃがいもを収穫している収穫機(ハーベスター)を見に畑に出かけました。大変広い畑で、走り回って写真を撮っていたら、収穫機に乗って良いというので、息子と乗り込みました。土と共に掘り取られたじゃがいもは、コンベヤーで搬送される間にじゃがいもだけに選別され、併走しているトラックの荷台へ運ばれ、ほぼ片道で、15トン程度のトラックは、荷台いっぱいになりました。気が付



くと砂埃などで、頭の毛、耳の穴まで砂だらけでした。

展示場内では、米国ポテト協会の人と話す機会がありました。一番聞きたかったことは、現在中止されている米国産ポテトチップ用馬鈴薯の輸入再開のめどです。協会の話では、現在政府間で話し合いがされており、「Maybe」2月には再開されるでしょうということでした。「あなたは、輸入が再開されたら米国産ポテトチップ用馬鈴薯を買いますか？」と聞かれましたので、「取引先の半分は生協であり、いろいろな問題もあって、難しいでしょう。」と答えました。

夕方この会場で米国ポテト協会主催のバーベキューパーティーがあるということで、手持ちぶさたに待っていました。豚の丸焼きが出てきたのですが、味は？・・・米国人は楽しそうに食べていました。

ホテルに着くや、お腹が空いて、チーズケーキを食べました。

8/26(土)

会議の日程も昨日でほぼ終わり、町にも慣れ、のんびりとくつろいだ一日が始まりました。

Boise の町の朝市 (FARMERS MARKET)

八百屋さん (きゅうり、唐辛子、焼き唐辛子、ピーマン、じゃがいも)

果物屋さん (リンゴ、いちご、クランベリー、ラズベリー)

お土産屋さん (プローチ、ペンダント、耳飾り、ネックレス、絵、石けん)

道で音楽をしている人

朝食は、アメリカ人をまねて、パン屋さんで、アーモンドチョコレートパンを買って歩きながら食べました。朝はあまり人混みではなく空いていましたが、お昼近くになるとたくさんの人波となっていました。

午後は、ホテルから公園に行き、アイダホの歴史博物館、黒人の歴史博物館、動物園 (北国のいろいろな見たことがない動物がたくさん。トナカイ、ハゲタカ、白いヒヨウなど)、列車の形をした観光バスで町を一周 1 時間で 200 年くらいたった古い家を見ました。

「草履のような大きなステーキが食べられる」と旅行前に言ったのですが、未だに食べられず、焦る気持ちもありましたが、米国人は美味しいものを食べないのか？との思いもあり、インターネットで検索し、フランス料理の「ANDRAE'S」を予約、下記メニュー (ホームページに記載) を頼みました。

<http://www.andraesboise.com/menus3.htm>

ちょっと緊張しながら、美味しいものを食べ満足な Boise の晚餐となりました。

最後に、親子二人旅に、多くの皆様の援助があり、楽しい時間を過ごすことができました。同行させていただいた皆様および旅行中に会った皆様に、この場を借りて深く感謝いたします。

市場調査

参考価格（換算は \$ 1 = 115 円、1 元 = 15 円とした）

米国アイダホ（本年 8 月下旬価格）

< アルバートソンズ >

P B ポテトチップス 312 g 173 円

ポテトチップス（フリトレー）326 g 230 円

じゃがいも（ラセット 4.54 kg 入）1 kg 97 円

< ウォルマート >

P B ポテトチップス 340 g 173 円

ポテトチップス（フリトレー）326 g 230 円

じゃがいも（ラセット 4.54 kg 入）1 kg 51 円

じゃがいも（ラセットベイクド用）1 kg 135 円



中国青島（本年 9 月上旬価格）

< カルフル >

ポテトチップス（零点）ばら売り 500 g 300 円

ポテトチップス（上好佳）100 g 59 円

ポテトチップス（フリトレー）100 g 91 円

じゃがいも 1 kg 30 円

< ジャスコ >

ポテトチップス（上好佳）110 g 74 円

ポテトチップス（フリトレー）100 g 80 円

じゃがいも 1 kg 39 円

< ウォルマート >

ポテトチップス（フリトレー）100 g 65 円

じゃがいも 1 kg 30 円

米国と中国両国を比べるとポテトチップの製品価格は近く、じゃがいも価格は、青島の方が安くなっています。品質面では、アイダホの方が良いと思われました。日本は、製品・じゃがいもとも共に価格が高いですが、品質面では、両国の中間にあると思われます。近い将来、再度、中国からのストアブランドなどの製品輸入が考えられると思ひます。

~~~~~

## 編集後記【閑話】

先日、近郊（宮城県北部）の道の駅の産直売り場をのぞいてみました。各農家ごとのブースで、多種多様な野菜が販売されている中で、ばれいしょについては、ほとんどが「キタアカリ」でした。ここまで、普及してきたのだなと喜んでおりましたが、品種登録（種苗法）から早 16 年すでに登録が切れておりました。月日の流れが速いのか、男 薯のせいなのか。